

## 三菱商事株式会社+東京・神奈川・千葉・埼玉のひとり親家庭の母子

「母と子の自然教室」は、自然の中で人と人、心と心の触れ合い体験する、ひとり親家庭の母子を対象とした2泊3日のキャンプで、1974年から継続して毎年実施しています（場所：新潟県南魚沼市）。参加親子は東京都とその近郊の社会福祉協議会や母子団体に協力を頂き募集をし、毎年100組ほどの親子が参加しています。3日間のプログラムは東京YMCAの指導のもと運営事務局と社員ボランティアが作り上げていく、手作りのキャンプです。

この「母と子の自然教室」では、参加する子供達には自然の中でのびのびと遊んで貰うこと、母親には仕事や家事を忘れキャンプを楽しみながら親同士のネットワーク作りをしてもらうことを目的としており、これまで45年間継続し招待した母子は17,708人、参加したボランティアは1,000人を超えました。毎年50名ほどの社員ボランティアが参加しますが、その年代も新入社員からベテランまで様々です。夏休み期間に行われる本番のために5月頃から準備を開始しますが、女性は参加母子と共に民宿に宿泊し寝食を共にするため、その生活をサポートするための細かなスケジュール確認や現地の情報収集などを行い、男性は山歩きや水遊び、キャンプファイヤーなどの個々のプログラム作りをしています。いずれにしても対象である母子についての対象理解、また、何らかの障がいのある参加者がいる場合には、事前に専門の先生に対応方法などをしっかりと学び本番に臨みます。



キャンプ本番、ボランティアは参加者全員とフラットに接することができるよう“キャンプネーム”で呼び合います。夫々の首から下げた、キャンプネームが書かれたネームプレートを見ながら、初めは緊張しながら呼んでみる子供達も、時間が経つとだんだんと大きな声で友達のように声を掛け合えるようになります。ボランティア同士もキャンプネームで呼び合うことで年代や性別を超えた信頼関係が生まれ、ぐっと距離が縮まっていきます。

テレビやゲーム機のない3日間は長いようであつという間に過ぎていきます。その中でも確実に大きな変化が現れます。参加母子は複数の民宿に分宿しますが、自然と子供同士で食事の配膳のお手伝いをするようになったり、年下の子の面倒を見るようになったり、という光景が見られます。またボランティア間でも、急な体調不良や自分だけで対処しきれない事案が発生した時には、必ず誰かがフォローするなど自然とチームワークが生み出され、それが後々仕事にも活かされるようになっていきます。3日間の締めくくりである最後の晩のキャンプファイヤーでは、楽しみながらも“これでこの仲間とは明日お別れ”というメッセージを受け取り、大人も子供も楽しかった出来事を自分なりに振り返り、心の中に刻んでいきます。



### ●成果

毎年、参加した母子から「都会では味わえない自然体験が出来た」「普段見ることの出来ない子供の一面を発見した」「同じ悩みを持つ仲間と話をすることで肩の荷が下りた」などの感想を頂くことで前述した目的の成果を感じることができています。またそれと同時に参加した社員ボランティアにも副次的な効果があり、「子供達から元気を貰った」「コミュニケーション能力の勉強になった」「自分達にももっと出来ることがあるのではないか」などの感想に表れるように、この施策を経験することで仕事に対する意識に変化が生まれ、社会に貢献する意欲の向上に繋がるなど、自然と社員教育の場にもなっています。このように私たち三菱商事は「母と子の自然教室」を継続して実施していくことで、誰もが生きやすい社会の実現を目指しています。